

7月26日（金）、令和6年度地域支援センター特別支援教育研修会を本校で行いました。

文部科学省 初等中等教育局 視学官の菅野和彦先生をお招きして、『特別支援教育の動向と自立活動の指導の充実』についてお話をいただきました。

自立活動の授業を行う際に、肢体不自由のある児童生徒の見てわかりやすい困難のみに着目するだけでなく、その困難の背景や要因等を探り、関連付けて、その「困難」を理解し指導することが大切であることや、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとする自立活動の指導目標や指導内容が展開されているかを確認しながら実践することが大切であることについてお話がありました。自立活動の指導は、「すべての授業の生命線」とあり、学校の教育活動全体を通じて適切に行い、児童生徒が主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとする姿を引き出せるように取り組んでいきたいと思えます。

